令和7年度 都川水の里公園「稲作体験講座」第2回【草取り・自然観察・看板作り】6月1日

第2回の活動は、「田の作業」「畑の作業」「田んぼの自然観察」「看板づくり」と盛りだくさん。
今回は、7組21人の受講者が参加しました。予報は曇りでしたが、晴れて、気温約20℃と作業しやすいお天気でした。

1 本日のプログラムを案内した後に、イネの生育状況の説明がありました。昨年より田植え後の欠損苗が少なく、順調に生育しているとのことです。また、草取りを行う目的や草取り機具の発達などについての説明もありました。
2 田の中に入って草取りをする人、畦の草刈りをする人に分かれて作業を行いました。田の中には、オモダカ、コナギ、ウリカワ、セリ等の水田雑草が生えており、草を根から手で抜いて泥の中に埋め込んだり周りの土手や畦に放り投げたりします。草取り作業は、イネの根に酸素を送り込み成長を促す効用もあるそうです。また、草丈が低いうちに効果を発揮する「中耕除草機（田車）」を用いた草取り作業を体験しました。稲と稲の株間に田車を入れ、押したり引いたりしながら進むのは結構な力が必要ですが、作業に慣れてくると子どもたちは楽しみながらやっていました。
3 １時間ほど田の草取り作業を行い、目立つ草はほぼ抜くことができました。

▲イネの生育状況、草取りの説明

▲田の草取り

▲田の草取り

▲中耕除草機（田車）を用いた草取り体験

４　畑の作業は、サツマイモ苗（紅はるか）の植え付けです。３班に分かれ、畝の上に３０ｃｍ間隔で置かれた苗を植えていきます。移植ごてで浅く溝を掘り、そこへ芋苗を置いて、土をかけます。１班あたり、２０本の苗を植えました。

▲芋苗を植える

サツマイモは、苗を植えてから100～120日後に収穫できます。10月の収穫祭では収穫した芋を焼き芋にしていただく予定です。

5　畑の作業の後、田んぼ周辺の自然観察を行いました。講師は、自然観察指導員の萩さん。田んぼ周辺には、草や木のほか田の中の水生植物や藻類など様々な植物が生育しています。

サクラの葉にできる虫こぶ（虫えい）は、アブラムシが寄生してできます。田の土手では、イグサの花や花柄、ハショウブの匂いや花を観察しました。

水の里公園の田んぼの水は、すべて自噴井（じふんせい）という湧水が供給しています。地下に浸み込んだ雨水が地上に湧き出す仕組みや千葉市内で湧出量が一番多い自噴井「太郎」の説明に受講者の皆さん感心していました。

萩さんが事前に捕獲した、カエル（アマガエル、アカガエル）、外来種のカダヤシ、貝（タニシ、カワニナ）、蝶（モンシロチョウ、キチョウ）を見せてくれました。子どもたちは植物より動物の方により興味があるようです。

▲サクラの葉の虫こぶ

▲イグサの花

▲自噴井・太郎

▲アマガエルとアカガエル

▲特定外来種のカダヤシ

▲貝やザリガニ

6　田んぼの観察会の後、田んぼに建てる看板づくりを、班毎に子どもたちの共同作業で行いました。初めに田んぼの名前をみんなで考えるのですが、なかなか決まりません。やっと決まった名前を看板に書きました。その周りに田んぼや生きものなどの絵を描いて完成です。班ごとに個性と感性豊かな作った看板ができました。田んぼに運んで建て、看板を囲んで記念撮影しました。

▲共同で看板作り

▲共同で看板作り

▲看板を囲んで記念撮影（１班）

▲看板を囲んで記念撮影（２班）

▲看板を囲んで記念撮影（３班）